

第14回福岡県地域エネルギー政策研究会 基調講演2

くらしの中の省エネ・節電 ～生活者の視点から

2015年2月5日

消費生活アドバイザー・環境カウンセラー

林 真実 (はやしまみ)

1 エネルギー消費の現場から

- ・ライフスタイル・世帯構成・ライフステージ・住まい・機器・生活課題は、百人百様！
- ・おおらかな県民性 意識はおおむね高いが「やってない」「したくない」という方も
- ・節約・エコカル・スマート・グリーン・・・行動のカギは人それぞれ
- ・業務部門もライフスタイル目線からみると省エネポテンシャルが非常に高い
- ・待機時消費電力は5.1%まで減少。むしろ削減すべきは「ばなし」「不要・過剰エネ」
- ・格差拡大・貯蓄ゼロ家庭の増加 → 省エネ投資力の低下

2 阻害要因の分析と推進のポイント

- ・阻害要因・・・見える化の景色化 伝わらない情報 理解されない状況
 - 経済・知識不足・行動のしにくさなどさまざまな省エネバリア
- ・推進のポイント ①機器・エネルギー選択 ②行動変革 ③住まい選び・改修
 - ④ひとづくり ⑤まちづくり

— 見える化・省エネ診断は効果あり／定期的な見直しを

— エネルギー、機器、住宅、教育など「仲介者」への啓発・人材育成が急務

— “楽しい省エネ”は人も町も元気にする・・・省エネソリューションの多面的効果

3 消費者視点から思うこと ものづくり・政策への不安と期待

- ・スマートハウスって、本当にスマート？
- ・個人情報漏えい・監視・制御・命令される、ちょっと冷たい暮らしになる？不安
- ・節電行動への誘因方策 外的誘因 極端な時価はストレスに 弱者への配慮を
- ・見える化 → 見せる化の工夫 (五感で認知、行動誘発)
- ・技術ありきではなく、生活課題・地域課題を解決するライフスタイル・サービス提案を
- ・”楽しい” “温もりのある” “インターフェイス、” “つながりを生む” サービスを期待
- ・低所得者層のための住宅政策、シンプルで手の届く省エネ機器供給対策も必要では？
- ・政策・供給者・研究者は生活者視点を、消費者も俯瞰的視野を！

⇔立場・分野を超えた教育・対話・交流・連携促進を 以上